


閣内第二二三號


起 昭和三十六年六月九日

閣議決定 昭和 年 月 日 施行

昭和 年 月 日



内閣總理大臣 


内閣書記官長 

内閣書記官 







外務大臣   
陸軍大臣 


文部大臣 

逓信大臣 

厚生大臣 

内務大臣   
海軍大臣 

農林大臣 

鐵道大臣 

公営企業大臣 

大藏大臣   
司法大臣 

商工大臣 

拓務大臣 

榮業大臣 

別紙

興亞運動の強化統一に關スル政府卜

ミテ、措置ニ関スル件  
右閣議ニ供ス

通牒案 一

昭和七年 月 十日

内閣書記官長

外務大臣  
内務大臣  
大藏大臣  
陸軍大臣

海軍大臣

司法大臣

文部大臣

拓務大臣

厚生大臣

對滿事務局總裁

興亞院總裁

情報局總裁

農林大臣  
商工大臣  
逓信大臣  
鐵道大臣

宛(右通)

興亞運動ノ強化統一ニ関スル措置ニ関シ

別紙、通閣議決定相成候條依命此  
段及通牒候

通牒案

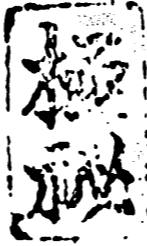
昭和十六年六月十日

内閣書記官長

大政翼賛會事務總長宛

興亞運動ノ強化統一ニ関スル政府トシテノ  
措置ニ関スル件

今般貴會ニ於テ興亞運動、強化統一要綱  
決定ニ付之ニ對スル政府トシテノ措置別紙  
ノ通閣議決定相成候條御了知相成度  
依命此段申進候



興亞運動ノ強化統一ニ關スル政府トシテノ措置ニ關スル件

大政翼賛會ニ於テハ別紙ノ通興亞運動ノ強化統一要綱ヲ決定シタル所之ニ對シ政府ニ於テハ左記ノ如ク措置スルモノトス

記

(一) 政府ハ大日本興亞同盟(假稱)ニ加盟セルモノニ對シテハ其ノ興亞運動ノ實施ニツキ便宜ヲ供與ス

興亞運動ヲ實施スルモノニシテ右同盟ニ加盟ヲ拒ミタルモノニ對シテハ特別ノモノヲ除クノ外其ノ興亞運動ノ實施ニツキ便宜ヲ供與セズ

(二) 政府ハ興亞運動強化統一上妨トナルモノハ之ヲ差控ヘシムル如ク

指導ス

備考

本文ハ之ヲ發表セザルニ右ノ趣旨ヲ適當ナル方法ヲ以テ一般ニ知  
ラシムルコト

興亜同盟ノ如ク国民運動ノ中樞核肉ノ總  
裁ハ事實上其黒トナリテ之ニ挺身者ナリ  
ル者タルヲ要ス内閣成リニテハ野目ナリ其意  
味ニテ大政變ヲ期スル者ナリテ之ヲ形勢的  
ニ察スルハ絶對取テナリ

松岡外務大臣

外務省



大 政 員 會

東 庶 第 四 九 號

昭 和 十 六 年 六 月 九 日

大 政 員 會 事 務 總 長



內 閣 書 記 官 長 殿

興 亞 運 動 統 一 二 閣 ス ル 件

首 題 ニ 關 シ 本 月 七 日 東 庶 第 四 九 號 ヲ 以 テ 及 御 照 會 候 處 九 日 付 閣 下  
第 二 一 二 號 ヲ 以 テ 差 支 へ 無 キ 旨 御 回 答 ニ 接 シ 候 ニ 付 テ ハ 原 案 ハ 通  
決 定 致 候 條 此 段 及 御 報 告 候 也

甲 巳 五 日 付 閣 下

部 外 秘

與亞運動ノ強化統一要綱案

昭和一六、六、七  
大政翼賛會

昭和十六年六月七日  
皇會 東京  
皇會 東京

一 皇國內ニ於ケル與亞運動ハ一月十四日閣議決定ノ趣旨ニ基キ與亞  
諸國体及與亞有縁者ヲ以テ大日本與亞同盟（假稱）ヲ結成シ強力  
ニ展開スルモノトス  
本同盟ニ加盟セルモノハ過去ニ泥マズ個々ノ立場ニ因ハレス本同  
盟ノ糾領ニ歸一シ與亞運動ニ歸スル限リ本同盟ノ統制ニ服スルモ  
ノトス

二 前項以外ノ國体ニシテ與亞運動ニ特殊ノ關係アルモノニ對シテハ  
別ニ之ガ對策ヲ講スルモノトス

三 皇國外ノ地域ニ於ケル與亞運動ニ就テハ別ニ之ヲ研究スルモノト  
ス

六 日本與亞同盟結成要領案

昭和一六、六、七  
大政翼賛會

日本與亞同盟結成要領左ノ如シ  
一 構成分子

大日本與亞同盟ハ次ニ掲クル組織ニ賛同シタル與亞諸國体及與亞有識者ヲ以テ組織ス

二 組織要領(別紙第一)

三 組織大綱

1. 本部ヲ東京ニ置キ必要ノ地ニ支部又ハ連絡部ヲ設ク
2. 本同盟ニ總裁其ノ他ノ役員ヲ置ク  
總裁ハ大政翼賛會總裁ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ、其ノ他ノ役員ハ大政翼賛會ノ役員及本同盟ニ加盟セルモノノ中ヨリ同盟總裁之ヲ指名ス
3. 本同盟ノ意思決定ハ總裁ノ統裁ニヨル
4. 本同盟ノ運営ニ必要ナル機構ハ總裁之ヲ定ム
5. 本同盟ノ經費ハ加盟セルモノノ獻金、寄附金及補助金等ヲ以テ之ヲ支辨ス

(四) 結成要領

1. 本同盟結成ノタメ準備委員會ヲ設ク

2. 準備委員會ハ大政翼賛會總裁ノ推薦シタル委員長一名、委員若干名ヲ以テ構成ス(別紙第二)

(五) 同盟ノ運営

同盟ハ結成後更ニ特別委員ヲ採ケ其ノ運営時ニ其ノ行動力ヲ強化スルカタメ、同盟内部ノ機構其ノ他ノ諸要素ヲ整備統合スルモノトス

(六) 同盟ト大政翼賛會トノ關係

1. 同盟ハ大政翼賛會ノ外廓團體トシテ之ト緊密ナル聯繫ヲ保持スルモノトス

2. 大政翼賛會ハ政府ト表裏一体ノ關係ニ於テ本同盟ノ指導ニ當ルモノトス

大日本興亞同盟（假稱）綱領（案） 一六、六、七

一 本同盟は、盛國の精神に則り、八紘を擁ひて一字と爲し、其邦をして各々其の所を得しめ、兆民をして悉く其の塔に安んぜしむるの理想の下、世界の新秩序を建設して恒久平和の確立と人類文化の興隆とに寄與せんことを期す

二 本同盟は、日滿華三國共同宣言の趣旨に基き、主權の尊重、國防の協力、經濟の提携、文化の創成を以て東亞維新の道標と爲し、全民族力を凝集して大東亞共榮の大業に邁進せんことを期す

三 本同盟は、興亞國民運動の前衛を以て任ずる同志の結合にして、興亞の國策に協力し、之が實現を推進せんがため、堅忍持久、挺身躬行、國民の總力を結集し、以て東亞積年の禍根を断ち、今次運動の目的を貫徹せんことを期す

別紙 第二

大日本興亞同盟結成準備委員會委員

委員へ大政翼賛會總裁ニ於テ左ノ者ヨリ選定スルモノトス

1. 關係各廳官吏
2. 大政翼賛會役職員
3. 既存興亞團體役員
4. 興亞有識者

見

書

昭和二十六年六月  
大政翼賛會

第一、同盟結成ノ時期ニ關スル件

大日本興亞同盟ノ結成ハ六月末日ヲ以テ完了シ之カ結成式ヲ七月七日ニ舉行スルモノトス

第二、同盟ト政府トノ關係

大日本興亞同盟ニ加盟セル興亞專業團體並ニ興亞學術調査團體ハ各々其ノ關係事項ニ於テ所轄官廳ノ指令監督ニ服スヘキコトニ於テト異ルトホラス

第三、興亞運動及興亞團體ノ意識ニ關スル件

- (一) 興亞運動トハ大東亞新秩序建設ニ對スル興亞理念ノ具體化トシテ推進實踐ニ關スル諸運動ヲ謂フ
- (二) 興亞團體トハ興亞運動ヲ主タル目的トスル政治思想團體及學術ニ直接關係アル經濟團體、文化團體、學術研究調査團體ヲ謂フ

昭和十五年十一月三十日

大東亞新秩序建設ノ指導理念統一ニ關スル件

(昭和十五年十一月三十日閣議決定)

一、大東亞新秩序建設ノ目標トセル時國體ノ指導理念ハ昭和十五年十一月三十日日滿華共同宣言ニテ闡明セル趣旨ニ依ラシムル如ク指導ス

陸國ノ精神ニ反シ皇國ノ國家主權ヲ尊重ナラシムル所アルカ如ク

國家聯合理想ノ展開ノ際ニ基ク國際形勢ノ對立ヲ促進セントスル

運動ハ之ヲ排却スル如ク指導ス

二、帝國內ニ於ケル大東亞新秩序建設ニ關スル建設的思想運動ハ大政翼賛會ヲシテ政府ト表裏一體ノ關係ニ於テ之ニ當ラシムルカ爲本運動

ノ關係諸國體ヲ適宜整理統合シ大政翼賛會ト連絡ヲ保持セシム

右諸事ノ成立ニ伴ヒ政府指導ノ下ニ大政翼賛會ヲシテ他ノ諸國ニ於

ケル國體ニ對スル建設思想ノ展開セシムルカ爲大政翼賛會内ノ

第二項大政翼賛會ト

保持セシムルカトハ外

リテハ當該會當該門

自レテ行フモノトス



此種關係校稱ヲ適正ナラシムル如ク措置ス

備考

東亞聯盟中國同志會ノ支那ニ於テ行フ運動ハ日滿蒙共同宣言ニテ剛  
明セル趣旨ニ反セサル限り之ヲ阻止スルコトナシ、但シ該同志會ト  
新民會トノ團體的統合ハ當分ニテ避ケ北支ニ於ケル日滿蒙共同宣言  
ノ趣旨普及ハ新民會ヲシテ之ニ當ラシム

極秘

閣下第一八九號

昭和十六年五月二十六日

閣下第一七六号五月二十五日

昭和十六年五月二十日

内閣總理大臣



内閣書記官

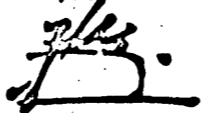


内閣書記官

外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣

海軍大臣

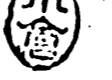
農林大臣



鐵道大臣



商工大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



陸軍大臣



別紙企畫院總裁上申  
科學技術新體制確立要綱ニ關スル